

先端科学技術研究科 修士論文要旨

所属研究室 (主指導教員)	数理情報学 (池田 和司 (教授))		
学籍番号	2011092	提出日	令和 4年 1月 21日
学生氏名	木村 智彦		
論文題目	いじめが思春期のメンタルヘルスに与える影響の研究:内発的動機づけとその神経基盤の観点から		
要旨			
<p>思春期は身体的健康と同様に精神的健康(メンタルヘルス)の発育にとって極めて重要な時期である。多くの社会的・身体的要因が思春期の子どもたちをメンタルヘルスの問題に対して脆弱にしうるが、特にいじめに関しては思春期の子どもたちのメンタルヘルスに悪影響を与えることが指摘されてきた。Ryan &amp; Deci (2000)は、動機づけにおける高い自己決定性が健康なメンタルヘルスを維持することを述べた。先行研究では思春期の間にいじめられた経験を持つ学生が学業に対して低い内発的動機づけを持っていたことが報告されたが、内発的動機づけ・いじめ・メンタルヘルス間の関係性について包括的に調査した研究はほとんどない。これらの関係性を調査するために、本研究では思春期を対象としたコホート研究によって取得された内発的動機づけ・いじめ・メンタルヘルスのスコアをそれぞれ比較・検討した。さらに本研究では脳活動への介入によるメンタルヘルスの改善を見据えて、いじめと内発的動機づけが思春期のメンタルヘルスに与える影響の根底にある生物学的機構について、神経科学的な計測によって解明することを試みた。解析の結果、いじめられた経験のある個人はそうでない個人に比べて低い内発的動機づけのスコアを呈し、反対に自律性の低い動機づけに関しては高いスコアを示した。それだけでなく、メンタルヘルスのスコア(WHO-5 精神健康状態表)については、いじめられた経験のない群において、いじめられた経験のある群よりも有意に高いスコアを呈したことがわかった。その一方で、内発的動機づけのスコアに関連する神経基盤を発見したが、いじめられた経験の有無による神経基盤の差については確認されなかった。</p>			